

# いっぽいっぽ

R 2・12・4 No.8  
天草市立有明小学校  
特別支援教育コーディネーター  
山本美紀



## 子育てに早道はありません

中1の子どもたちが腰を浮かしながら自転車をこいでいる姿に、たくましさを感じ成長に安心すると同時に元気をもらう日々です。また、前任校での子どもたちも高校生になり、すれ違う楽しみができました。日に焼けて真っ黒だった夏から、少し洗練された顔立ちに成長している姿をみるにつけ、自立の日が近づいていることを感じます。ここまでくると、親は子どもの意思を尊重しながら見守り役に回るようになりますね。

有明小の保護者の皆さんは、まだまだ子育て支援中。世の中の流行を感じつつも迷い迷い一喜一憂しつつの日々でしょう。「子育ては親育て」とも言います。赤ちゃんを産んだから「親」になるのではなく、「育てていくうちに子どもから親にしてもらう」のです。大事なことは【信念をもって子育てをする】ことではないでしょうか。

先日学校の保健委員会で、赤ちゃんに寝返りをさせるためにとか静かにオムツを替えるためとかの手段として赤ちゃんにスマホを視聴させる人がいる、と聞きました。電子メディアは過敏化の回路ができるため、依存傾向が出てくるそうです。子どもが小さいときほど

★目を合わせる(視線は合うか確認を！)

★語りかける(表情豊かに)

★包み込む(安心感をもたせる)

ことが大切です。親がスマホをいじりながら子どもの話を聞くなどという姿は、どちらが親なのかわからなくなってしまいます。

今、子どもは小学生。電子メディアの情報がベストではありません。家族団らんは一緒に触れ合うことを第一に考えましょう。



**寒いときは上からではなく下から重ねましょう！**

師走の声を聞くと同時に寒風吹きすさむ毎日となりました。靴下をちょっと長めのものにしたり厚めの生地に替えたりするだけで保温効果が違います。肌着も冬用を準備してやるといいですね。

**掃除の仕方を大掃除で教えましょう**  
大掃除の時期です。子どもたちにも学びのチャンス到来です。

上から下へ拭く。  
物をどかして拭く。  
置く場所を整える。

など、自立に必要な知恵は家庭にたくさん隠れています。



## 効果的にほめるための基本

冬休みが近づいています。親と子の距離が近くなる時です。子どもたちにたくさん体験させ、成功体験を味わわせてもらえれば嬉しいです。また、頑張っている姿にも大げさに賞賛しましょう。ほめるということには、ことばだけでなく、いろいろな要素があります。もっとも効果的にほめるために次の基本を守りましょう。

### 行いをほめる

子どもをほめるではありません。人としての子どもではなく、子どもの行動に反応しなければなりません。だからこう言いましょう。  
○「ふとんの準備ができたね。」  
×「いい子ね。」

### タイミング

できるだけ早くほめる。行いの最中または直後に。

### 目

子どもと視線を合わせましょう。子どもはあなたの言っていることを聞いているか、それを確認する必要があります。子どもをあなたの側に呼ぶか、子どものところに行きましょう。

### からだ

子どもと同じ目の高さになりましょう。たとえおとなが嬉しそうにしているも見下すように立たれると、子どもはいつも自信がなくなってしまうものです。子どもはあなたの支えと熱い気持ちを感じ取るでしょう。

### 声の調子

子どもがしたことでああなたの気持ちがよいことを表していなければなりません。

### ことば

メッセージは短く、明瞭で肯定的でなければなりません。気持ちを込めてしてほしい行動を子どもがしていることを必ず知らせましょう。

### 効果的にほめる

肯定的な注目を受けるとき、あなたの子どもはどんなやり方が一番好きか考えましょう。こっそり？それともみんなの前で？など子どもにとって効果的なほめ方をしましょう。

### 皮肉を避ける

ほめるときには、辛口のコメントはいっさい含んではいけません。たとえば、「よくやれたね。でも、もっと早くやっていたら・・・。」または、「ほらできると言ったでしょう。私が言った通りだったでしょう。」これらはほめようとするあなたの努力を台無しにしています。



むずかしい子どもに優しい子育て シンシアウィルタム著より

